

令和2年9月4日

学長からのメッセージ

～2020年度後学期における対面授業の開始について～

ご家族の皆様へ

国立大学法人 東京海洋大学
学 長 竹 内 俊 郎

本年は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的な伝播に鑑み、この“禍”をどのように克服するかが問われており、学生及び教職員の皆様には、これまで3回(スケジュールの変更を含めると4回)メッセージを発出してまいりました。

今回、2020年度後学期(10月1日～)における対面授業の開始にあたり、ご家族の皆様方に私(学長)からのメッセージを発出し、本学のCOVID-19拡大防止対策関連の現状や本学の教育・研究のこれまで及びこれからについて、ご理解を賜ることとしました。

これまで、学生の皆さんには、遠隔授業や入構禁止など、様々なお願いをしてまいりました。併せて、ご家族の皆様にもご協力をいただき誠に有難うございます。本学がある東京都は感染者数が多いこと、特に、品川キャンパスがある港区は、人口当たりの感染者数が都内の区市町村で第2位の高率になっています(人口1万人当たり39人:令和2年9月1日現在)。また、本学の特色の一つである練習船において感染者が出ないようにするため、“感染しない、他人に感染させない”をモットーに、他大学にも増して、厳しい感染防止対策に努めてまいりました。

そのため、前学期(4学期制では1,2学期)の授業の開始を1か月ほど遅らせるとともに、すべて遠隔(リモート)で行うこととし、現在は、前学期がほぼ終了し、実験・実習・演習及び補講の一部と試験を残すのみとなっています。8月24日から、一部対面方式により実施しているものもありますが、多くは遠隔で実施しています。

さて、本学は「実学」を旨とし、実験・実習・演習などの科目も多いことから、2020年度後学期(4学期制では3,4学期)がスタートする10月1日から「対面による授業」を開始することとしました。このことは、学生の皆さんには、既に9月1日付けの「令和2年度後学期における授業等の実施方法について」によりお知らせしているところです。

対面での教育を通じて得られる学生と教職員との関係、そして、学生同士のつながりは学生の皆さんにとって、かけがえのない人間関係の構築に必要なものだと考えています。上述したように、学生への感染のリスク拡大は極力低減させる方策をとった上で、遠隔授業では得られない学びの機会を確保したいと考えております。事態の長期化は避けられない見通し

の中、政府も経済活動と感染拡大防止の両立を模索しているところでもありますが、対面授業の実施について、ご家族の皆様方には、格段のご理解を賜りたいと存じます。

従いまして、これまで帰省先等での遠隔授業を余儀なくされていた学生の皆さんに、大学に戻ってきていただくこととなります。ご息子・ご息女を送り出すことに対して不安を抱かれている方もいらっしゃるかもしれませんが、3密（密閉・密集・密接）を避け、手洗いや消毒の徹底を図るとともに、すべての学生・教職員への毎日の検温の義務化や体調の自己管理の実施など、徹底した感染拡大防止策を引き続き講じてまいります。どうぞ、ご安心いただきたく思います。なお、大学の対応については、大学ホームページ <https://www.kaiyodai.ac.jp/>をご覧ください。

現在のところ、まだまだコロナ禍が収まる様子はないようですが、**With** コロナの中での新しい生活様式を模索しながら、学生の皆さんが元気で有意義な大学生活が送れるよう、大学としても最大限のサポートをまいります。みんなで力を合わせて、この困難を乗り越えたいと思います。

何卒、ご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。